

一 次の(1)から(4)までの言葉に関する問い合わせに答えなさい。

(1) 次のアからケまでの言葉は、人の気持ちに関係する表現である。

それらは「緊張」「安心」「誇り」の三つのグループに分けられる。それぞれのグループにあてはまる言葉を、三つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 肩に力が入る
ウ 人心地つく
オ 固唾を飲む
キ 鼻が高い
ケ 枕を高くして寝る

イ 胸をなで下ろす
エ 手に汗をにぎる
カ 胸を張る
ク 威風堂々

(2) 次の文中の耳が痛いを意味が同じになるように、別の表現で

言いなさい。

親の言うことは耳が痛いが、素直に聞いてみることにした。

(3) 次の文中的はかるにあてはまる漢字として正しいものをあと

のアからエまでの中から()内の説明を参考に一つ選び、記号で

答えなさい。

水の深さをはかる。

ア 測る（決まった道具や方法を用い、数量や程度を調べること。）
イ 図る（物事の実現に向けて、方法を工夫し計画を立てること。）
ウ 計る（物事の度合いや進み具合を調べ、見当をつけること。）
エ 量る（物事の中身や価値、程度などを見極め、見積もること。）

(4) 次のことわざと似た意味を持つことわざをあとアからエまでの

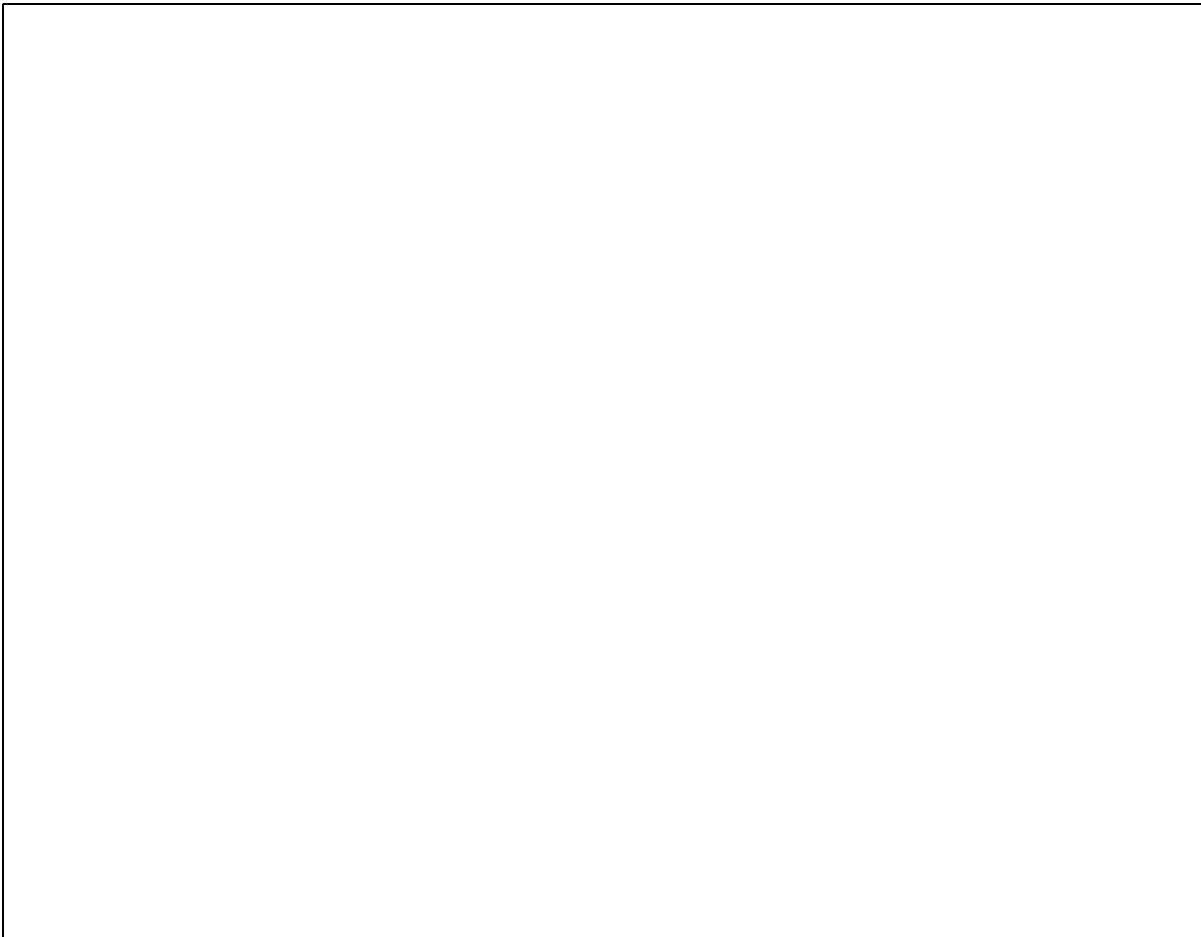
中から一つ選び、記号で答えなさい。

ことわざ……泣き面に蜂

ア 口は災いのもと
ウ どんぐりの背比べ

イ 豆腐にかすがい
エ 弱り目にたたり目

二 次の文章、【文章一】から【文章3】を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。なお、問題の都合上、本文を変更しているところがある。



(1) □から3に入る言葉の組み合わせとして、最も適当なものを次のアからエまでのなかから選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | |
|---|-------|---|------|---|------|
| ア | ーつまり | 2 | なぜなら | 3 | しかし |
| イ | ーたとえば | 2 | なぜなら | 3 | そのため |
| ウ | ーつまり | 2 | そのため | 3 | たしかに |
| エ | ーたとえば | 2 | つまり | 3 | さらに |

(2) 【文章一】に書かれていることと一致する最も適当なものを次のアからエまでのなかから選び、記号で答えなさい。

- ア よく勉強する子が「良い子」なのではなく、知識などなくとも自分の頭で考えることができるのが「良い子」である。
- イ 西洋の文明は常識を疑うことで新しい技術を生み出したが、日本での文明開化では常識を大切にしながら革新を行つた。
- ウ 江戸幕府は200年以上も鎖国を続けた結果、自分たちの常識それ自体を失つてしまい結果として滅亡してしまった。
- エ 西洋では「織物は手で織るもの」といった常識を疑つた結果、仕事は機械にやらせる方がいいという発想が生まれた。

(3) 「A」「B」に入る言葉を【文章2】からそれぞれ二字でぬき出して、答えなさい。

(【文章一・2】出口治明『なぜ学ぶのか』より、【文章3】岸見一郎
『やつくり学ぶ 人生が変わる知の作り方』より)

- ※1 無機質：生命感や温かみ、感情がほとんど感じられない様子。
- ※2 懐疑：うたがいを持つこと。あやしいと思うこと。

(5) D ある文化で生まれ育った人は、その文化で自明で常識となつてい
る考えに囚われてしまつてゐる とあるが、ここでいう「常識」に
ついて【文章一】ではどのように説明されているか。次の「あ」

「い」に合うように本文中の語句をぬき出して、はじめの五字
をそれぞれ答えなさい。

常識は「あ十五字程度」ために必要とされる。

←(しかし時代は常に変化するため)

常識は「い十五字程度」と言つこともできる。

(6) 「E」に入る言葉として、最も適當なものを次のアからエまで
の中から選び、記号で答えなさい。

ア それまでの常識は悪いものだと決めつけたり、勝手に時代に合

つた判断をしようとしたりするようなことです

イ 昔ながらの考え方をかたくなに守つたり、周囲に流されずに自

分の意見を押し通したりするようなことです

ウ これはこういうものだと決めてかかつたり、誰かがいつている

ことに安直に飛びついたりするようなことです

エ 耳に入る情報を常に疑つてかかつたり、自分のほかに誰の言う

ことも信用しなくなつたりするようなことです

(7) 次は【文章一】から【文章3】を読んだある中学生のノートです。

これを読んであとの①、②の問い合わせに答えなさい。

《共通のテーマ》

・「なぜ学ぶのか」

→学ぶ理由や学ぶことで身につくことについて。〈ア〉

《各文章の共通点》

○自分自身の頭を使って考へることが大切。〈イ〉

←つまり

「常識」にとらわれず、鵜呑みにしないで考へるべき
だということ。〈ウ〉

なぜなら常識はいつの時代でも人類の発展を妨げてきた歴史が
あるからだ。〈エ〉

○学校の成績や暗記というのは「学び」のすべてではない。

←つまり

高い偏差値をとつたり、ただ無批判に覚えることだけを目的とす
るべきではない。〈オ〉

○どの文章も先人たちの言葉を引用して自分の考へをくわしく説明
している。〈カ〉

←
福沢諭吉や三木清、フランシス・ベーコンらは常識を疑うこと
でイノベーションを成功させてきた。〈キ〉

《学ぶ目的について》

【文章1】人生をより面白く生きるため。

【文章2】「**X**」。

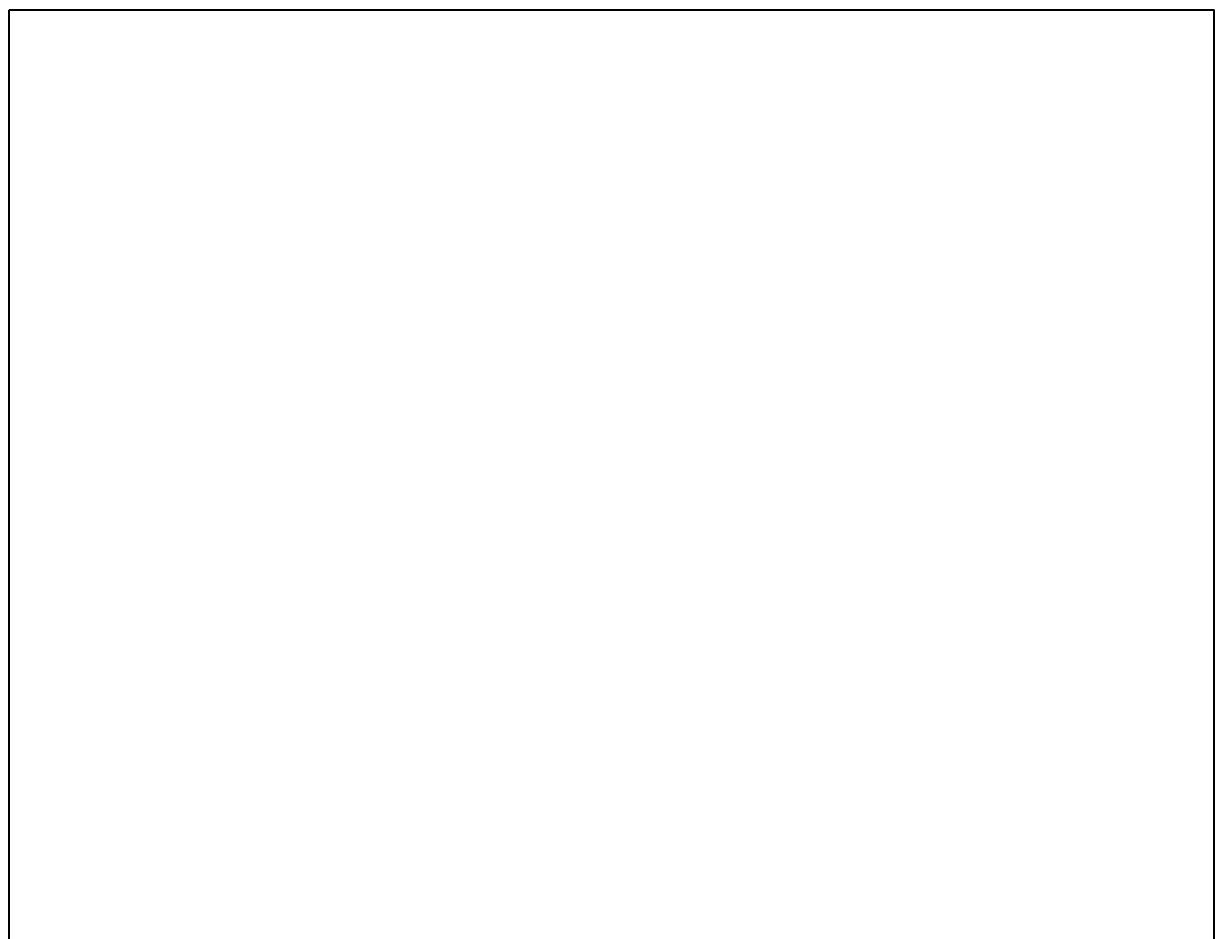
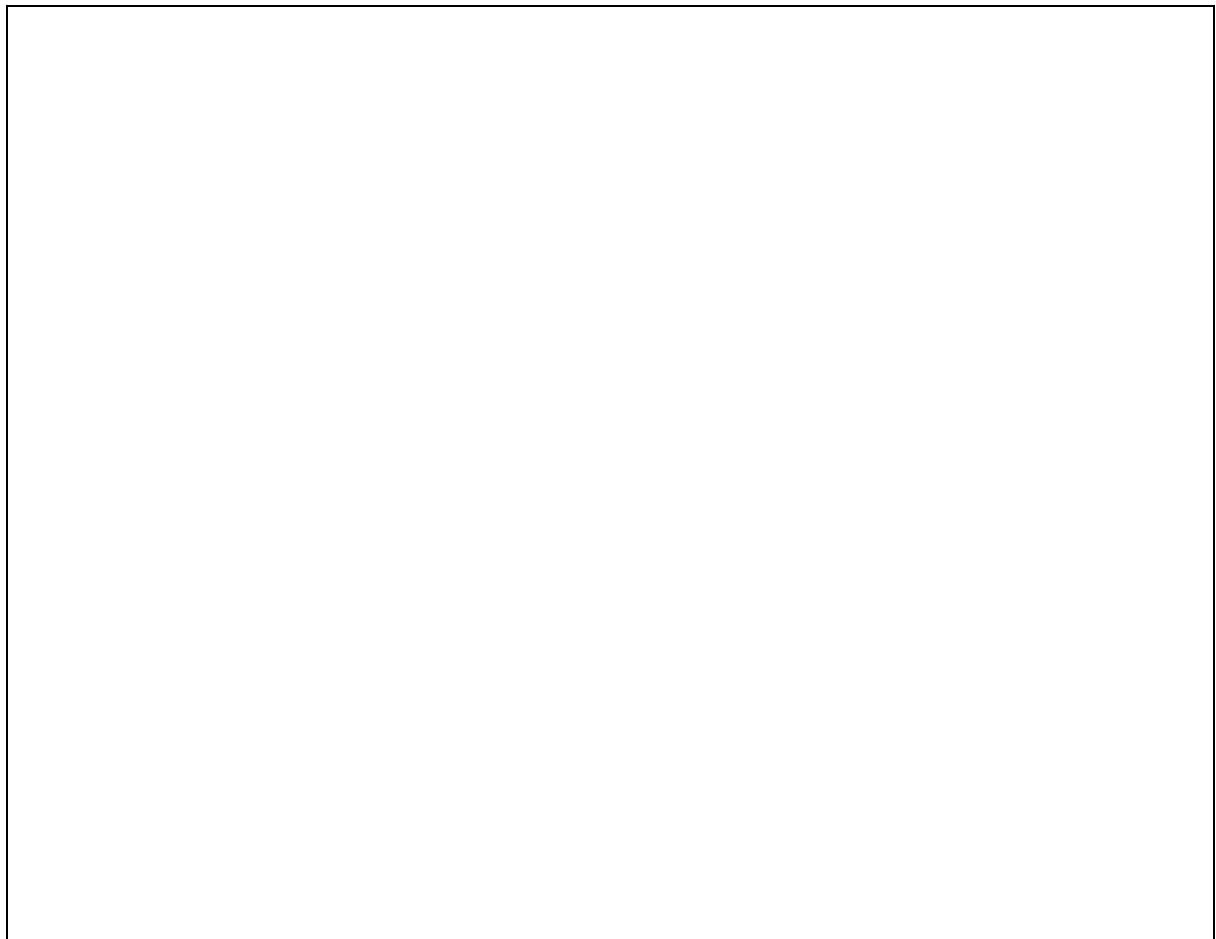
【文章3】自分で考える力を身につけ、正しく考えるため。

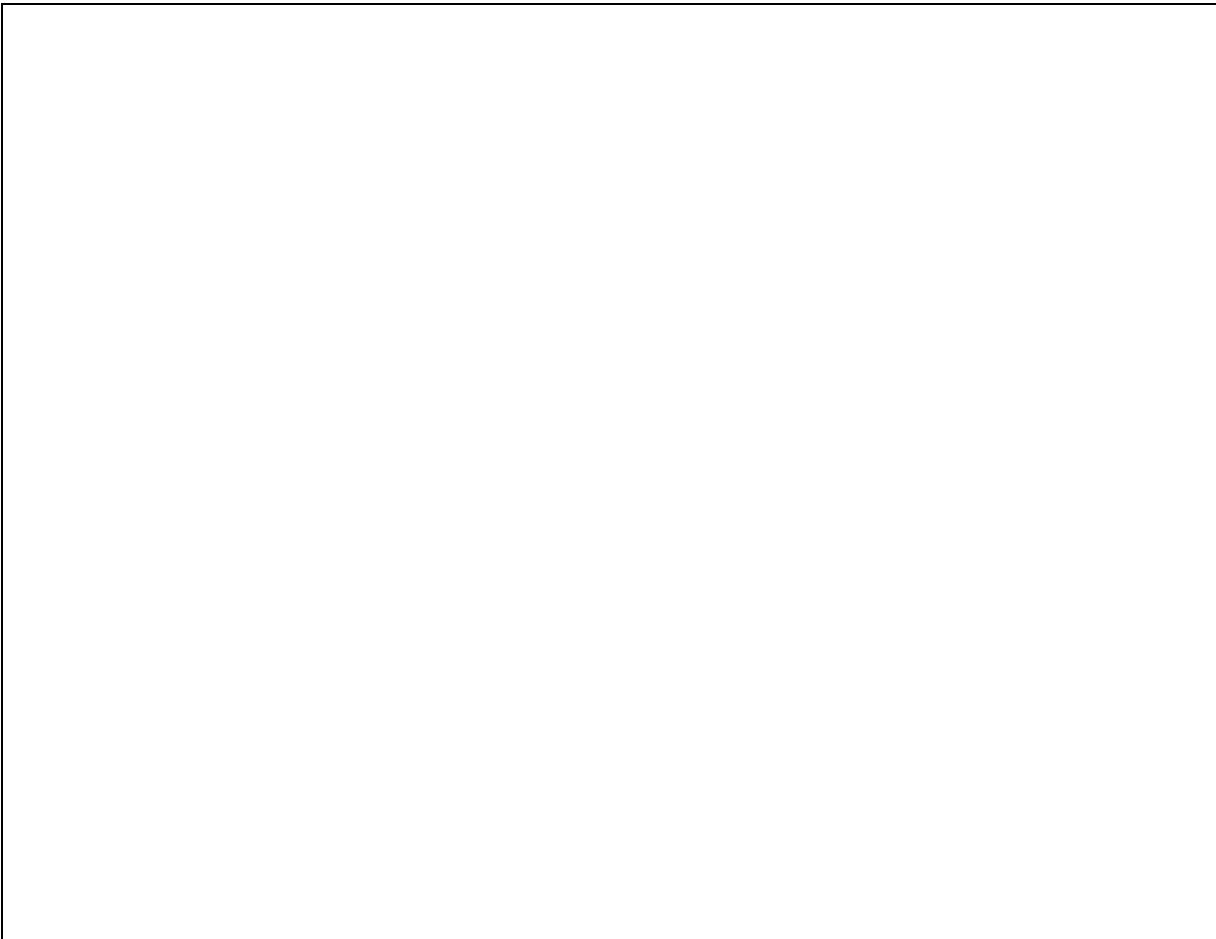
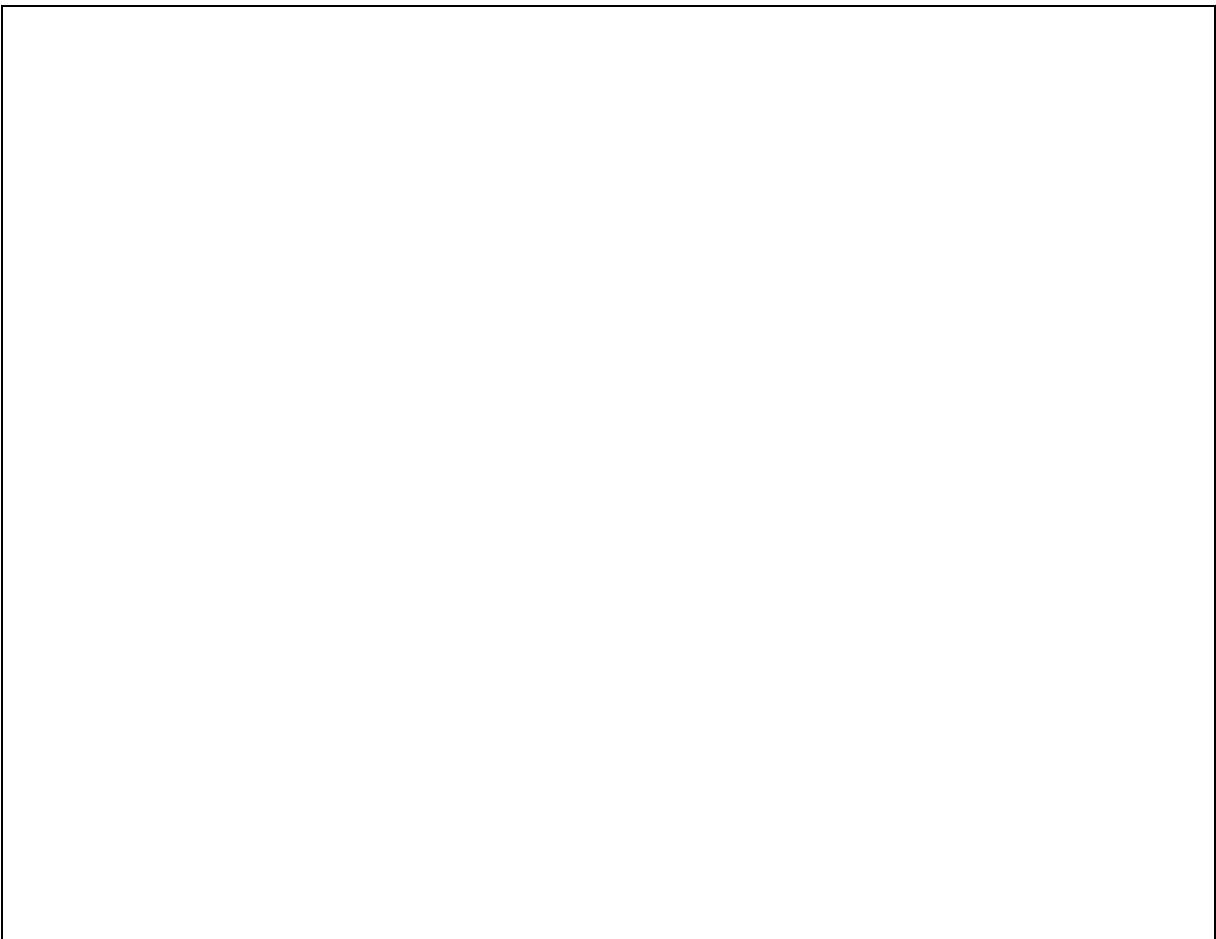
- ① 誤りをふくむ部分を「ア」から「キ」までのなかから二つ選び、記号で答えなさい。

- ② 「**X**」に入る言葉として、最も適当なものを次のアからエまでの中から選び、記号で答えなさい。

ア 人生を無駄にせず生きるため
イ 人生をより正しく生きるため
ウ 人生を苦しまずに生きるため
エ 人生をより自由に生きるため

三 次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。





(重松清『答えは風のなか』より)

A

(1) でも、先生はほめてくれなかつたとあるが、この場面でミツルはどうな言葉をかけてほしかつたと考えられるか。最も適当なものを次のアからエまでのなかから選び、記号で答えなさい。

ア くもり空を描いてみんなを笑わせて喜ばせようとしたなんて友だち

思いだね。

イ 空の隅から隅まで鉛色になつたくもり空をとつてもきれいに描けて

いるね。

ウ 誰も描こうとはしないくもり空を自信をもつて選んできたところが偉いね。

エ くもり空の雲のフクザツな色合いや厚みのちがいを上手に表現しているね。

(2) 本文中、二か所にある「**B**」に共通して入る、体の一部を表す言葉を漢字一字で答えなさい。

(5) 先生の口調は、まるで「一たす一は2」と言い切るみたいだったとあるが、このたとえはどういう意味で使われているか。説明しなさい。

(3) C

「いいお天気の空」と「きれいな空」は別なんじゃないかと思つた。「強いヒーロー」と「カッコいいヒーロー」が、似ているけれど、ビミョーに違うみたいにとあるが、これらの言葉の組み合わせと同じ関係の組み合わせになつてているものを次のアからエまでのなかからすべて選び、記号で答えなさい。

ア 心ひかれる音楽..魅力的な音楽

イ 高級な自動車..ステキな自動車

ウ あたたかい料理..おいしい料理

エ 親しみやすい人..とつつきにくい人

(4) D

きれいな空つて、ふつうは青い空のことだと思うけどとあるが、このように「ふつうはうだ」と思われている物事について具体的な例を考え、次の「**1**」「**2**」から「**3**」を埋めて――線部Dと似た表現を作りなさい。

「**1**」「**2**」つて、ふつうは「**3**」「**2**」のことだと思
うけど

(6) この小説を読んだ生徒たちが本文中の二線部にふれながら自分の意見を出した。このうち、ミツルの気持ちが読みとれていないと思われるものはどれか。あのアからオまでのなかから一つ選び、記号で答えなさい。

ミフュ

..先生の話を聞いて、ミツルがきれいだと思つていたくもり空をほかのみんなはそう思つていないとわかり、何か自分はまちがつているのかもしないと不安になつたのかな。「ぼくはふつうじやないんだろうか……」って、誰とも同じじゃないということをミツルはとてもさびしく感じたのだと思う。

コウタ

..周りの人たちに自分の絵が評価されるのはミツルにとつてもうれしいことで、青い空を描いた方がその可能性が高いことはミツルにもわかつたよね。でもくもり空がいちばんきれいだと思う気持ちは変わらない。そんな迷いが「机の上の画用紙は、まだ真っ白なままだつた」から読みとれると思うな。

アオイ

..ミツルはこの絵をとおして自信をもつことができたんじゃないかな。みんな青空を描いたのに「くもり空の絵は、ミツルの作品だけだつた」。それはミツルが他の誰ももっていない自分だけの物の見方をしたということだから、ほかの誰よりも個性があるということに気づくことができたんだと思う。

ナギサ

..シールを貼つてくれたのがたつた一人だけだつたことは最初は悔しかつたんだと思うな。「しょんぼりと落ち込んでるような、にんまりと笑つているようなフクザツな表情」ってそういう悔しさと、それでも一人は共感してくれたことへのうれしさが一緒になつたような気持ちが感じられないかな。

チアキ

..たしかに、たつた一人だけでもシールを貼つてくれたのはうれしかつたのだと思う。でもそのあとで「たとえゼロだつたとしても——」とあるから、その一枚のシールがきっかけになつて、自分が信じていることを大切にしてもいいんだ、まちがいじやないと気づくことができたんじやないかな。

ア ミフュ イ コウタ ウ アオイ エ ナギサ オ チアキ

四 次の詩と鑑賞文を読んで、あとの問いに答えなさい。

貝と月 金子みすゞ

《鑑賞文》この詩には四つのものが出てきます。「糸」「貝」「雲」「月」。すべて「白い」という共通点はありますが、一見するとまったく関係のないもののように見えます。道具に、動物に、気象現象に、天体に……。しかし、作者はこれらがある共通点から二つのグループにわけました。「糸」「雲」は周囲の色に染まる仲間、一方の「貝」「月」は周囲の色に染まらない仲間としてです。

「糸」・「雲」→周囲の色に染まるもの
「貝」・「月」→周囲の色に染まらないもの

このように、まったく関係のなさそうなものが思いがけないつながりをもつていたのです。この作者は、身近なものを「あたりまえ」で終わらせずに、「なぜ?」を考え続けました。そういう小さな発見の数々が、それを読む私たちに感動をあたえてくれるのです。

問 次の語群から、ある共通点を持つ二つの語を選び、その共通点は何かを答えなさい。次に、その共通点を持たない二つの語を選びなさい。

〈語群〉

お日さま すべり台 傘 かさ
牛乳 色鉛筆 たいこ 茶碗 ちゃわん
飛行機 たんぽぽ

